

- 1 派遣期日 令和5年8月10日(木)
- 2 派遣先 会場名 真岡市民会館
所在地 栃木県真岡市荒町1201番地
<http://schit.net/tokkatsutochigi/>

3 研修内容

(1) 選定の理由

学校として、児童の自己肯定感が低いことや友達との関わりに課題がある。どのように学級経営を行っていくのか考えていたところ、令和5年度栃木県小学校教育研究会特別活動部会研究大会～第15回関東地区特別活動研究協議大会(栃木大会)～では、大会主題を「なりたい自分を見つけ、友達と協働して、よりよい生活を創る特別活動」と設定し、授業研究を進めていた。その中で、分科会を学級活動(1)「自己有用感を育み、協働して、よりよい学級・学校生活を送る」、学級活動(2)「自分で考え、友達と関わりながらよりよい生活をつくる学級活動」、学級活動(3)「自己への理解を深め、友達と高め合い、なりたい自分を目指す学級活動」として、教育活動を行っていたため、派遣先として選んだ。

(2) 視察大会における研究への取り組み

大会主題 「なりたい自分を見つけ、友達と協働して、よりよい生活を創る特別活動」
--

栃木県では、特別活動において育成を目指す資質・能力の視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの相互の関わり合いを意識して指導に取り組んでいる。学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事それぞれに大きく関わる資質・能力を明確にし、子供たちが実感をもって成長できたと感じられるような特色ある活動を行い、特別活動全体を通して社会や環境の変化に主体的に対応できる子供を育て、よりよい個の成長を図るための具体的な研究を行っている。

なりたい自分を見つける・・・将来を通して今の自分にできることを考え、自分自身のよさや可能性を見だし、様々な実践を通して、よりよい自分を目指すこと。

友達と協働する・・・クラブ活動や学校行事等の異学年交流を図る。また、個と個だけではなく、個と集団についても考え、お互いの違いを認め合い、共に課題に向かっていくこと。

よりよい生活を創る・・・自主的・実践的な活動を通して、様々な集団や社会、個の課題を主体的に解決していこうとすること。

(3) 分科会から

学級活動(1) 実践提案(発表者:石井雅也)

「自分や学級会を生かしてよりよい学級生活を創る学級活動」

【本実践で身に付けさせたい資質・能力】

○学級会において、意見の比べ方やまとめ方を理解し、よりよく合意形成できる力を育成する。

○係活動において、協働しながら友達や自分の良さを認め合う力を育成する。

【手立て】

①よりよい合意形成のための教師の事前・事中・事後それぞれの支援・指導の工夫をする。

②充実した係活動のための教師の継続的な支援・指導の工夫をする。

【成果(○)と課題(△)】

○提案理由に沿った意見の発表ができた。

- 反対意見の前向きな取り扱い（代案等）ができた。
- 児童の得意・好きを生かした係活動をするのができた。
- 係へのメッセージや振り返りからの自分や友達の良さ・すごさへの気付きにつながった。
- △「自分もよくみんなも良い」集団討議における合意形成の在り方・方法を考える。
- △議題箱に「困っていること」「みんなで解決したいこと」等全ての意見の取り扱い。
- △「計画→実践→振り返り」を継続する。
- △係活動本番のシミュレーションの支援

学級活動（２）実践提案（発表者：秋元太佑）

「自分で考え、友達と関わりながらよりよい生活をつくる学級活動」

【本実践で身に付けさせたい資質・能力】

- 自己の生活を振り返り、問題を解決していく力を育成する。
- 友達と互いに認め合い、協力して生活を向上させる力を育成する。

【手立て】

- ①自己の生活を振り返り、友達との関わり合いの課題を自分事として捉えられるような場面の設定をする。
- ②多様な意見を出し合い、考えを深めたり広げたりするための話し合い活動の設定をする。
- ③自分の課題にあったやり方を自己決定し、一連の活動を振り返る時間の設定をする。

【成果（○）と課題（△）】

- 自分事として課題を捉え、話し合いを通して、自己の生活を振り返り、問題を解決していく力を育成することができた。
- 授業後、目標達成のための活動を振り返ることで、互いの良さを見付け、個性を尊重し合う人間関係作りをすることができた。
- △今後、児童がさらに生活をよりよくするための実践意欲を高め、日常生活の中で自分の課題を認識し、周りに関わり合いながら解決する力を育成していく。

学級活動（３）（発表者：齋藤有紀）

「自己への理解を深め、友達と高め合い、なりたい自分を目指す学級活動」

【本実践で身に付けさせたい資質・能力】

- 異なる意見や考え方を基に、新たな価値や活動を生み出そうとする力を育成する。
- よりよく生きるために、今できることに主体的に取り組みながら、なりたい自分の実現を図っていこうとする力を育成する。

【手立て】

- ①インタビューしたり、友達の意見を聞いたりすることで、意見の相違に気付くようにする。
- ②なりたい自分になるために目指す具体的な姿をイメージさせる。

【成果（○）と課題（△）】

- 身近な将来像としての高校生と交流することで、なりたい自分は何かをより深く考えることができた。
- 学級の少ない人数の中では出なかった多様な意見を聞くことができ、自分たちの目指すイメージを明確にすることができた。
- △高校生との交流活動を教育課程にしっかりと位置付けて、意義を理解した上で活動させていく必要がある。

4 感想

これからの時代（不安定・不確実・複雑・不明確）を生きる子供達に求められる資質能力を育むために、各活動の特質（学級活動（１）「自治的活動」・学級活動（２）（３）「自己指導能力や自己実現」）の違いを踏まえた指導が大切であるとのことであった。【全体会より】

問題を解決していく力、協力して生活を向上させる力を育むために、４つの段階を踏まえた展開（問題意識をもち、「つかむ」自分の課題として受け止める・「さぐる」原因を追及し、解決への意識を高める・「見付ける」解決方法を話し合い通して考える・「決める」自己の努力目標や実践方法を考える）が大切であるとのことであった。【分科会より】